第３回さてら療育プログラム　　2009.12.5.

講話「かかわりあうことでこそ、自己肯定感は育まれる」：レジメ

阿 部 幸 泰
HP：http://www.h4.dion.ne.jp/~dekunobo/

Ⅰ：**「自己肯定感」の概念について**
自分はこの世に存在し、自分は生きていていいんだと感じること。

Ⅱ：**コミュニケーションについて**
生きる喜び：イ）人と係わり合う喜び。　ロ）知らないことを知る喜び
「生きる（生活する）」→「人間関係」→「コミュニケーション（想いの伝え合い）」
コミュニケーションは互いの背景が異なる→やりとり（螺旋的コミュニケーション）が大事
（別紙：「背景情報」
http://dekunobo-abe.web.infoseek.co.jp/batuku/21-kouki/haikei-jyouhou-zu.pdf　：参照）

Ⅲ：**家族への支援について**
親の専門家への願い：（別紙：「家族と係わり合う折に留意していること」
http://dekunobo-abe.web.infoseek.co.jp/batuku/19-kouki/kazoku-sien-ryuiten.pdf　：参照）

心の居場所（別紙：「オ母サンのもつ機能、心の居場所、しつけ」
http://dekunobo-abe.web.infoseek.co.jp/batuku/19-kouki/okaasan-situke-ibasyo.pdf
別紙：「父親のタイプと、オ父サンの機能」
http://dekunobo-abe.web.infoseek.co.jp/batuku/20-zenki/titioya-taipu-kinou.pdf　：参照）

Ⅳ：**支援者の資質について**
自立（自律）への支援（別紙：「利用者の自己決定権と支援の関係の模式図」
http://dekunobo-abe.web.infoseek.co.jp/batuku/21-kouki/syutaisei-sien-mosikizu.pdf　：参照）

人間相手（支援、教育、育児、保育、療育、等）の仕事には、ゴールはない。
係わるだけでなく、係わり合い続けること（“Not doing, But being. ”）。
知識と技術に裏打ちされた知恵をいかに働かせるかのチャレンジ精神と、自らを検証する勇気が必要。（与えられる知識は応用が効かない。求める知識は知恵となる。）

「地域で共に生きる社会」とは
単に地域の福祉資源を利用することだけではない。
それ以上に、地域の方々（親も含め）が共に生活する地域社会の構築、意識改革こそが必要であり、目標となる。　→　地域とは、場所でなく、地域の人々との繋がり。

関係機関・者の連携とは
すぐれたネットワークとは、まず情報を共有し、地位や立場とは関係なく、
①（担当のケースに抱く）個人的で感覚的な不安や感想も話題にできるような、ざっくばらんな場であることがとても重要。
②そのケースに関わる周囲の人たちが、お互いの大変さや内面の揺らぎを、仲間として支え合うこと。

Ⅴ：**おわりに**
障害のある子どもの観方　**“Children with disabilities are children, first.”**
生きる（人間関係）＝互いの輔け合い
（別紙：「『輔』けるという漢字を使う想いとは？」
http://dekunobo-abe.web.infoseek.co.jp/batuku/20-kouki/tasukeru-kanji.pdf　：参照）

Ⅵ：**質疑**

大崎地域相談支援センターさてら

さてら通信

第３号

平成 22 年　3 月

第3回　さてら療育プログラム　講演会＆茶話会

「かかわりあうことでこそ、自己肯定感は育まれる」を開催しました。

託児ボラに協力いただいた、ニチイケアセンター様・セントケアこごた様・大崎訪問看護ステーション様ありがとうございました！m(_ _)m

１２月５日に大崎市Ｆプラザにて、仙台から阿部幸泰先生をお招きして講演会＆茶話会を開催しました。

阿部先生からは「かかわりあうことでこそ、自己肯定感は育まれる」と題して、熱いメッセージをいただきました。「親子でも、家族でも、学校でも、職場でも、人がいればすれ違いや誤解、行き違いが生じて当たり前。わかってもらおうと思って工夫する。互いに工夫しあう。一方的にしたってだめ。だからコミュニケーション」「ただ感じること、余計なことは言わずにせずにただ受け止めること、急がない、焦らない」「だめだめで育つと人とかかわるのが怖くなる」「甘やかしではなく、甘えられる関係を。甘えられる＝自分の思いを伝えられること」等々、自己肯定感について、かかわりあう喜びについて、コミュニケーションについて、あっという間の２時間でした。

後半は工房パルコのパンをおやつに阿部先生を囲んで茶話会。若いお母さんの立場から、保育士さんの立場から、ベテランお母さんの立場から、施設職員の立場から、お父さんの立場から、それぞれご発言いただき活発な質疑応答、意見交換がされました。「見ないものは思わない～見せていく・発信する～周囲の理解につながる」「阿部先生の講話３回目。いつ聞いても勇気づけられる。子どもは成人式迎え、写真館で振り袖撮影した」「子どものことを外に出したくない、隠しておきたい。土日の買い物を避けてしまう」「職員とのコミュニケーションの取り方」「使いたいサービスがない、使えない」「親御さんの想いに添うには」など切実な本音をお話しいただきました。本音で伝え合うことによって、立場を越えてお互いの理解が深まることを実感したひとときでした。

アンケートでは「顔見知りになれるよう、係わっていきたい」「子どもとのかかわり方について勉強になった」「茶話会ではかなりリアルな内容もあり参考になった、情報交換によって解決策が見いだせるのでは？」「人間対人間ですよね、大変心温まる話しでした」「支援者の姿勢、考え方が障がいをもつ方の人生を左右すると言うこと、改めて気がひきしまる思いがした」「また聞いていきたい、教えて欲しい」「明日へのエネルギーをもらった」などのご意見、ご感想をいただきました。さてらとしても大きな勉強をさせていただきました。今後の業務や、企画に活かしていきたいと思っています。

次回さてら療育プログラムは、来年度の夏頃に予定しています。大勢のご参加をお待ちしています！